

CASBEE神戸ver.2 神戸阪急ビル増築工事		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.2 ■評価ソフト: CASBEE神戸ver.2 / CASBEE-BD_1		
スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.6
Q1 室内環境						3.4
1 音環境		4.4	0.15	4.1	1.00	4.3
1.1 騒音	オフィスの室内許容騒音値はNC40以下、ホテルはNC35以下	4.0	0.40	5.0	0.40	
1.2 遮音		5.0	0.40	3.8	0.40	
1 開口部遮音性能	開口部のアルミ建具、アルミカーテンウォール共T-2以上	5.0	0.75	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能	オフィス界壁はTLD-50、ホテル界壁はTLD-50	5.0	0.25	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	合成デッキt75+山上90(合計t165)の計算結果、LirH=60	5.0	-	5.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	2.0	0.20	
1.3 吸音	事務所は天井岩綿吸音板、床タイルカーペット。	4.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境		3.3	0.35	3.0	1.00	3.3
2.1 室温制御		3.7	0.50	3.0	0.50	
1 室温		3.0	0.41	3.0	0.57	
2 外皮性能		3.0	0.23	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性	オフィス・ホテルともマルチパッケージ(冷暖フリー型)※商業は別途工	5.0	0.36	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境		3.6	0.25	3.6	1.00	3.6
3.1 昼光利用		4.3	0.48	4.2	0.30	
1 昼光率	オフィス昼光率2.54、ホテル客室昼光率8.6	5.0	0.38	5.0	0.60	
2 方位別開口		3.0	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	3階に1、2階コンコース用のハイサイドライトあり	4.0	0.62	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		3.0	0.19	4.0	0.30	
1 昼光制御	ホテル部はカーテンと庇で制御	3.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.10	3.0	0.15	
3.4 照明制御		3.0	0.24	3.0	0.25	
4 空気環境		3.0	0.25	3.2	1.00	3.0
4.1 発生源対策		3.0	0.50	3.0	0.63	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	3.6	0.38	
1 換気量	ホテルは60~80m3/h/人	3.0	0.43	5.0	0.33	
2 自然換気性能		3.0	0.15	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.43	3.0	0.33	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.39	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.61	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.9
1 機能性		3.7	0.40	3.6	1.00	3.7
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性		3.0	0.14	3.0	0.50	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.14	3.0	0.50	
3 バリアフリー計画		3.0	0.72	-	-	
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	4.5	0.40	
1 広さ感・景観	ホテル客室部天井高2.6m	3.0	0.29	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.19	-	-	
3 内装計画	内装、照明のコンセプトを立案及び計画をしている。またモックアップも	5.0	0.51	5.0	0.50	
1.3 維持管理		4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	外壁の塗装部は耐久性の高いフッ素樹脂塗装とし、防鳥対策も施し、	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	清掃員控室、管理倉庫を十分に確保し、メンテナンス用ゴンドラも設	5.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		4.1	0.30	-	-	4.1
2.1 耐震・免震		4.8	0.50	-	-	
1 耐震性	時刻応答解析により大臣認定を取得している	5.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能	制振構造の採用、耐風用制振装置の導入により居住性を確保して	4.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.8	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁は、PCタイル打込、PCフッ素樹脂塗装、アルミカーテンウォール	4.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	事務所の内壁はビニルクロス貼り、天井は岩綿吸音板システム天井	5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	厨房、浴室、屋外系統のダクトにはガルバリウム鋼板を採用	5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:塩ビライニング鋼管、ポリエチレン管(B)、給湯:ステンレス(C)、	4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	

2.4 信頼性			3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			4.0	0.30	2.6	1.00	3.8
3.1 空間のゆとり			4.6	0.23	2.2	0.50	
1	階高のゆとり	事務所部分の階高は4.05m	5.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	事務所部分の壁長さ比=0.175、ホテル部分の壁長さ比=0.272	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		事務室部部の積載荷重は4,900N/m ²	5.0	0.23	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.4	0.53	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	壁立上・引下・貫通部分は配管にて保護	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	壁立上・引下・貫通部分は配管にて保護	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		神戸の玄関口に相応しいランドマークとなり、震災からの神戸復興の	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		旧神戸阪急ビル ¹ の再生。東面北面の歩道に面して旧神戸阪急ビルに	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		事務所の外壁面ガラスはLOW-Eとし、ホテル部はペアガラス+庇付。	4.3	0.19	-	-	4.3
2 自然エネルギー利用		1・2階コンコース中央へ外光を導くハイサイドライト+吹抜を3階に設	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 0.98 住宅(専有部) -	3.2	0.51	-	-	3.2
集合住宅以外の評価(3a.3b)		省エネ計算結果に基づく	3.2	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型大便器の使用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.3	0.60	-	-	4.3
2.1 材料使用量の削減		躯体コンクリートFc36、鉄骨部材F値385材を採用	4.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		南側の軌道直下(2階以下)及び、西館は既存高架躯体を利用。	5.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		電炉鋼材(異型鉄筋)	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		パーティクルボード、オフィス貸室OAフロア端部処理部分。	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		鉄骨造を基本とし、仕上げは乾式仕上(石貼り部分も)として、分別可	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.7	0.20	-	-	2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.6	0.70	-	-	
1	消火剤		2.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪場、駐車場を隔地で設置。荷捌き駐車場を適宜設置。	5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミ庫を適宜設置し、ゴミの分別回収容器を設置。	4.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	